

令和5年度 狭山保健室 活動報告



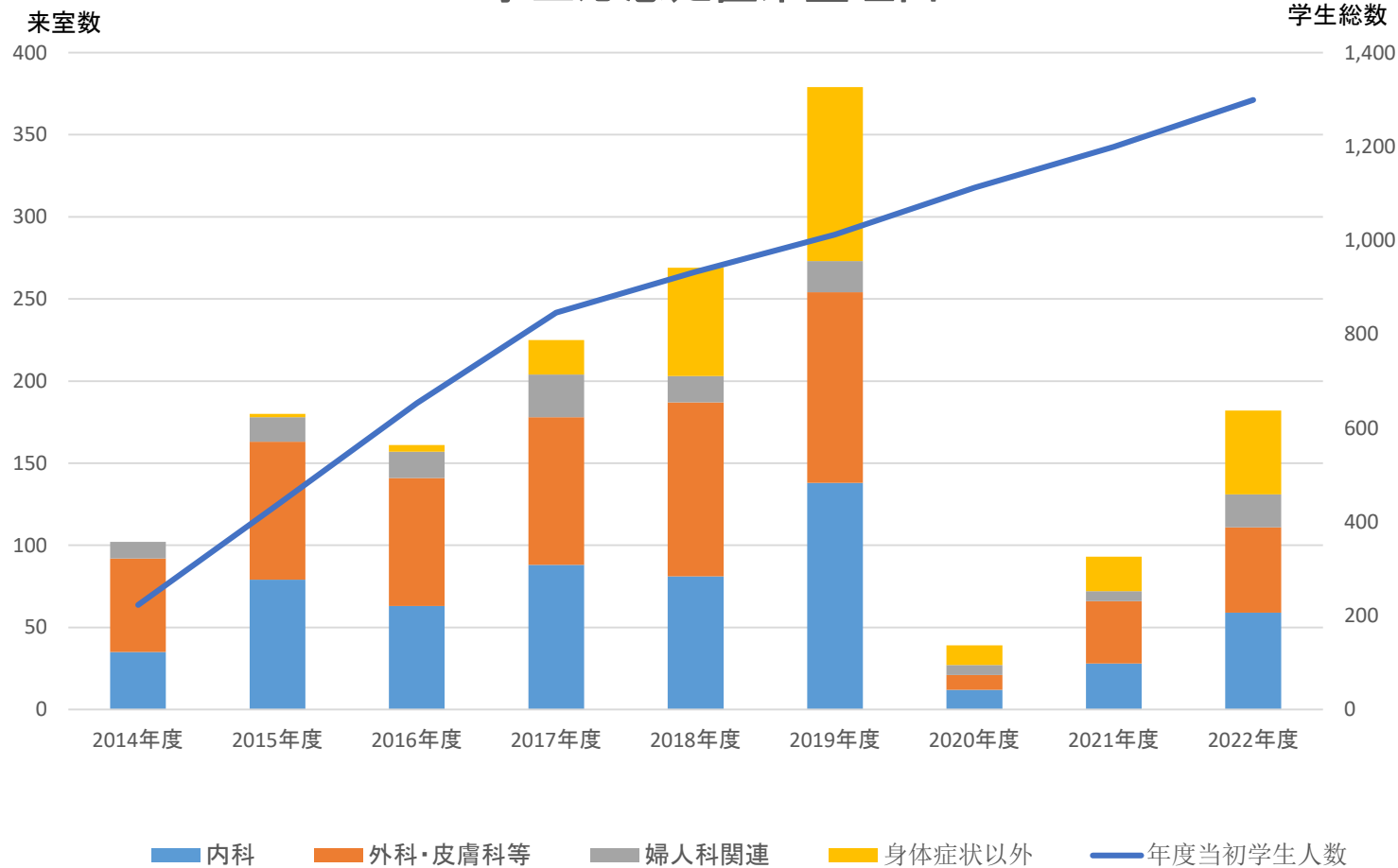
狭山キャンパスオリジナルキャラクター
「かせいのモリタン」と「かせいのモリリン」

狭山保健室・学生相談室紹介

	狭山保健室	学生相談室
職員人数	室長1名 看護師3名	臨床心理士2名 (開室日週3日)
業務内容	保健室業務 ・学生・教職員健康診断関連業務 ・応急処置対応、救護対応 ・産業保健関連業務 兼務 ・保育園関連業務(児童健診、応急処置等) ・クリニック業務(診療介助、予算計画ほか) ・訪問看護業務(自費訪問事業)	学生相談 職員相談 事務業務

狭山保健室学生利用

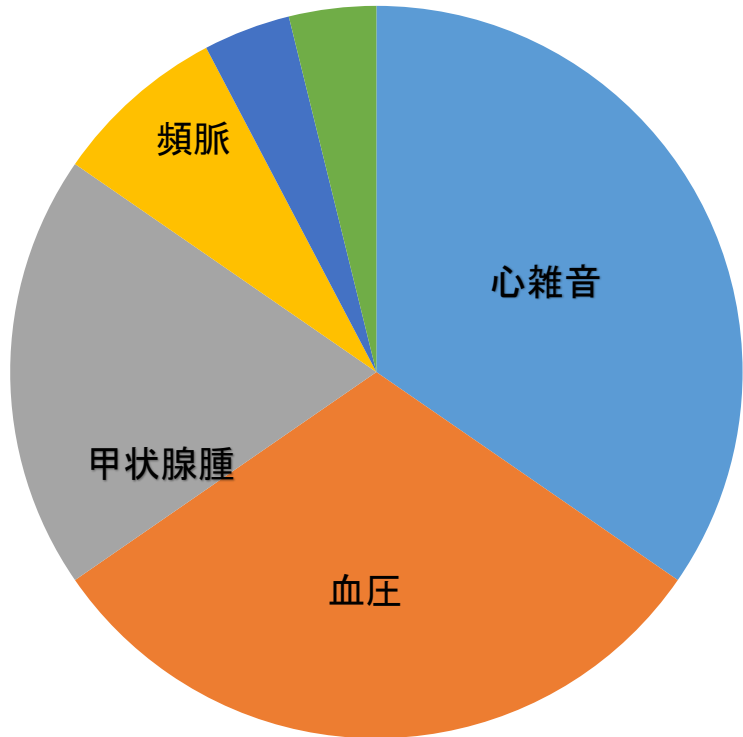
学生応急処置来室理由



2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大による影響で緊急事態宣言が発令。学生の登校が制限されたため来室数が減少している。対面授業が全面的に再開した2022年度は、内科系、外科系、身体症状以外を理由に保健室来室が多かった。

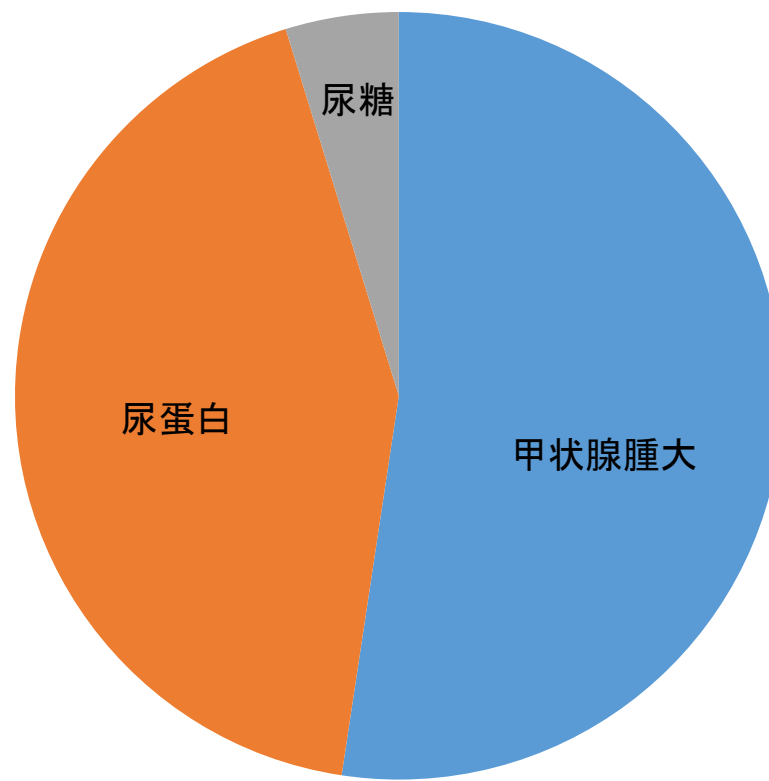
健康診断後の有所見者の対応

室長対応



■ 心雑音 ■ 血圧 ■ 甲状腺腫大
■ 頻脈 ■ 皮膚 ■ 眼瞼結膜貧血

かせい森のクリニック受診



■ 甲状腺腫大 ■ 尿蛋白 ■ 尿糖

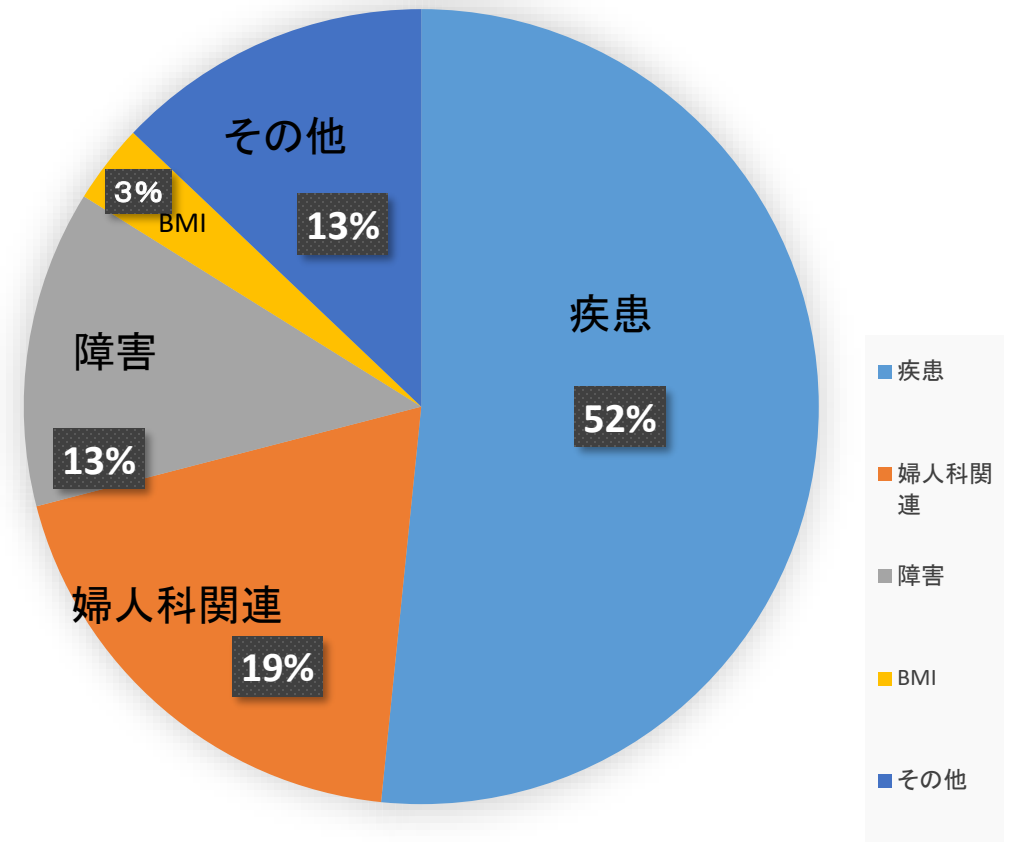
健康診断で有所見のあった学生は、室長面談をおこなった。
また、再検査が必要な場合は、キャンパス内のクリニック受診(月曜日・火曜日の診療を紹介)や近隣の医療機関を紹介するなどして学生が選択できる環境を整えた。

学生個人面談の実施

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で中断していた対面での個人面談を2023年度より再開した。健康カードからの情報と健康診断で有所見者を抽出し面談対象者のリストを作成し保健室スタッフが個人面談を実施した。慢性疾患、アレルギー疾患等で相談を希望する学生は室長面談を行った。

学生をとりまく環境が複雑化し細やかな対応が必要となっているため、室長面談、相談室との連携、教員と情報交換を行うなどキャンパス全体で学生支援を行っている

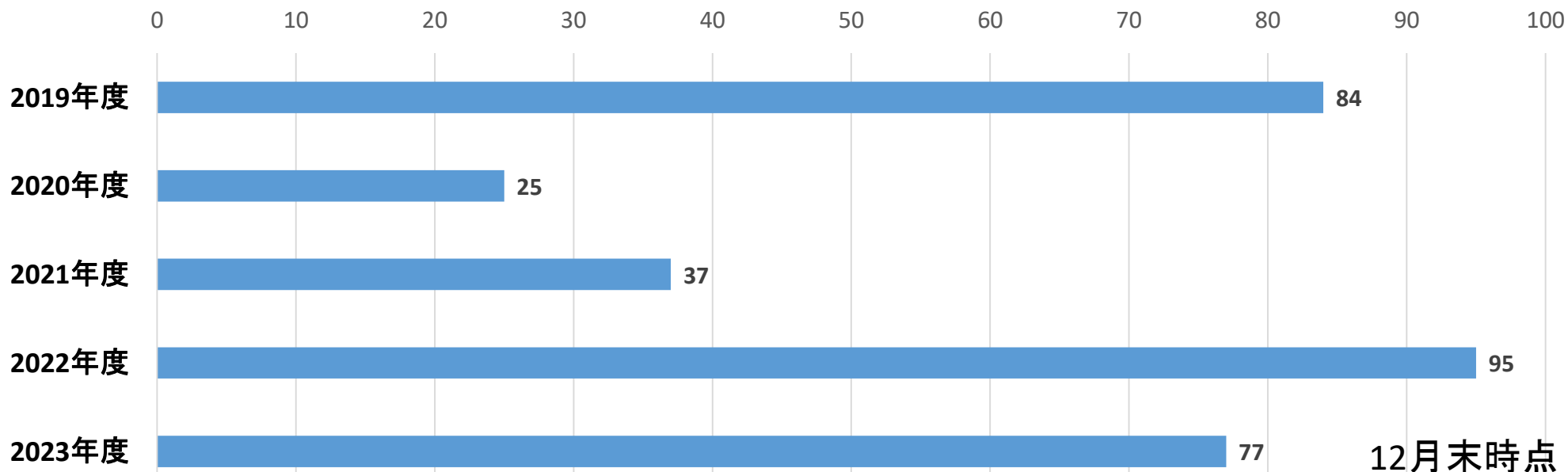
2023年度個人面談27名内訳



学生相談室 学生利用状況

2021年度までは臨床心理士1名体制で開室日週2日だったが、2022年度10月から臨床心理士2名体制となり、開室日が週3日（月曜、水曜、金曜）となった。

相談室利用件数



教職員に関する取り組み

1) 健康診断受診勧奨

定期健康診断・人間ドック受診率 2023年度 98%

非常勤講師レントゲン結果提出率 2023年度 25%

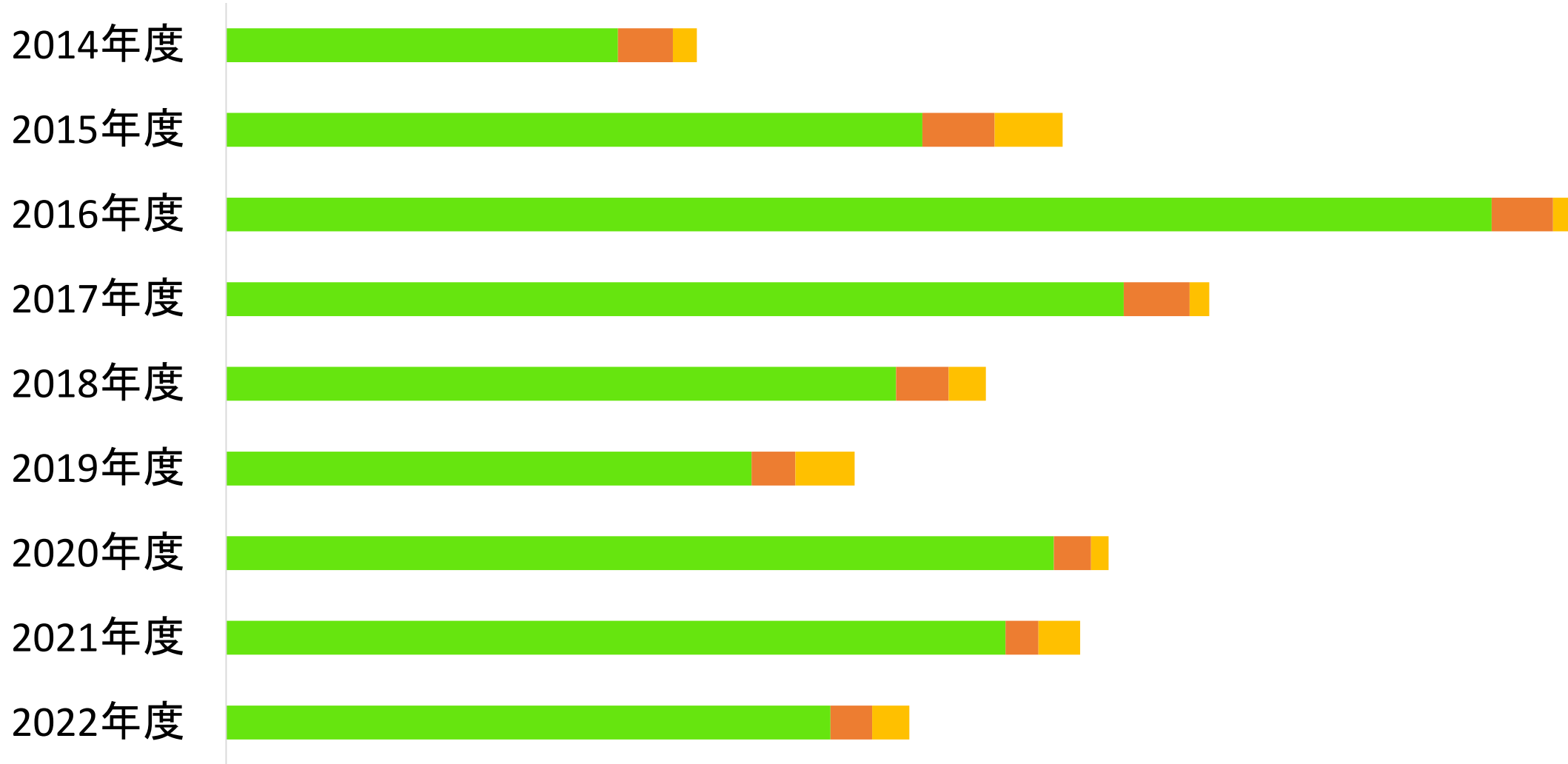
2) 健康相談

健康相談・カウンセリング対応 2023年度16件(1月末時点)

3) 啓発活動

かせい森のクリニックパンフレット配布、手洗いチェック
企画、VDT症候群自己チェックリスト配布

教職員来室内訳年度推移



■ 健康診断関連 ■ 応急処置 ■ 健康相談

かせい森のおうち 看護師業務

1. 看護師によるサポート開始

2014年度かせい森のおうち開設に際し、保健室看護師が兼務で保育所の保健業務の一端を担うことになった。(保育所の看護師配置については法的根拠はない。)

2. 園児の保健管理業務(週2~3回、1回平均55分)

① 日々の保健活動: 体調不良や休みの情報収集、応急処置、けがや症状の対応の保育士指導(処置や受診タイミング及び保護者支援)、救急搬送時対応

② 定期健康診断等介助、身体測定

③ 感染症発生時の対応と予防対策

④ 行事(運動会等)の救護

⑤ 保健便りの発行

⑥ 園児の外傷事故防止に関する指導

⑦ 特別な支援を必要とする子どもの支援

食物アレルギー・喘息、アトピー性皮膚炎、低身長や肥満、夜尿、摂食障害、発達障害、マルチトリートメント等

3. 職員の健康管理: 麻疹等の抗体価の把握、職員自身の健康相談等、

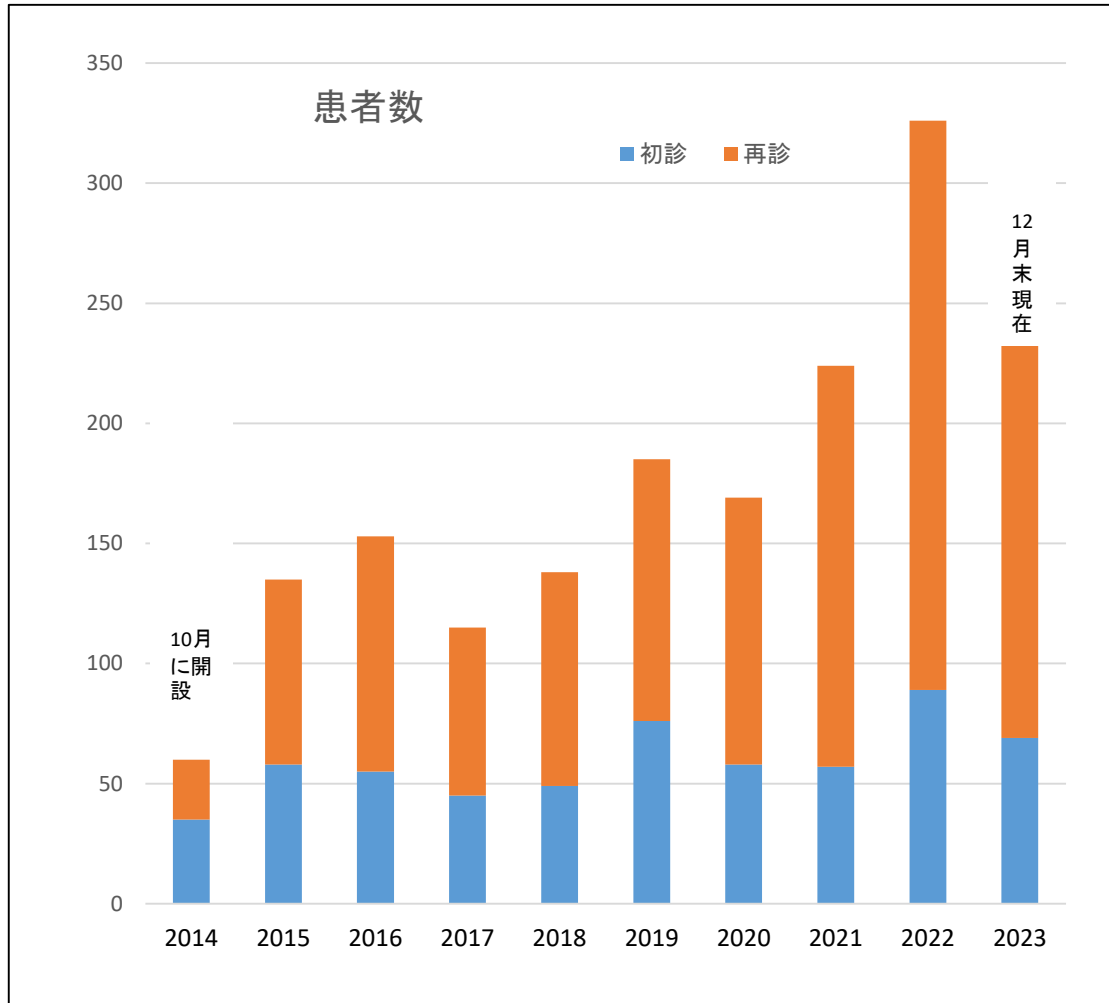
4. 健康関連研修会企画(アレルギー疾患、エピペン、救急蘇生、手洗い講習)

保育士の困っている健康管理に関する御用聞き

かせい森のおうち 年度ごとの看護師の関わり

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
トピックス		COVID-19流行 緊急事態宣言による 休園があった	保育園内流行による 臨時休園3回	保育園内流行による臨 時休園3回	0歳保育の応援 事務業務の応援
感染防止 対策	COVID-19感染防止対 策の指導 下痢症状のある園児 の登園を控える基準 の作成	COVID-19感染防止対 策に関するマニュアル 作成の助言 下痢後の登園基準 保育士による嘔吐処 理ロールプレイング アタマジラミ感染防止 対策	COVID-19に関する登 園許可証・登園届の変 更 園児のマスク着用につ いて園便り発行	COVID-19発生時の対 応相談	COVID-195類変更によ る登園届の変更 溶連菌感染症にり患し た園児の内服について 検討
保健指導	熱中症予防のための 戸外活動基準作成 事故防止活動(中性洗 剤の管理、滑り台の隙 間、カーテンの突っ張 り棒等) マルトリートメントの外 部機関との連携 発達障害児の外部機 関との連携	熱中症対策 頭部打撲後の受診の タイミングの指導 ステロイド軟こう使用 に関する情報提供 皮膚ケアに関する指 導 慢性便秘の指導 床劣化に伴うとげの対 策	予防接種をしていない 新入園児の対応 一時所持不明になっ た園児の対応 対応困難な保護者の 対応検討 →保健室全体でシフト 変更し、いつでも対応 できる体制とした	緊急薬品連絡票・アレ ルギー指導・管理表の 取り扱いを検討 子どもの急変対応につ いて指導 マルトリートメント児の 対応検討 保育士が園児の受診 に付き添う時の基準に ついて検討	外用薬連絡票の変更 熱性けいれんフロー チャート作成 慢性便秘の指導 ストレスのある園児の 対応 職員の健康相談

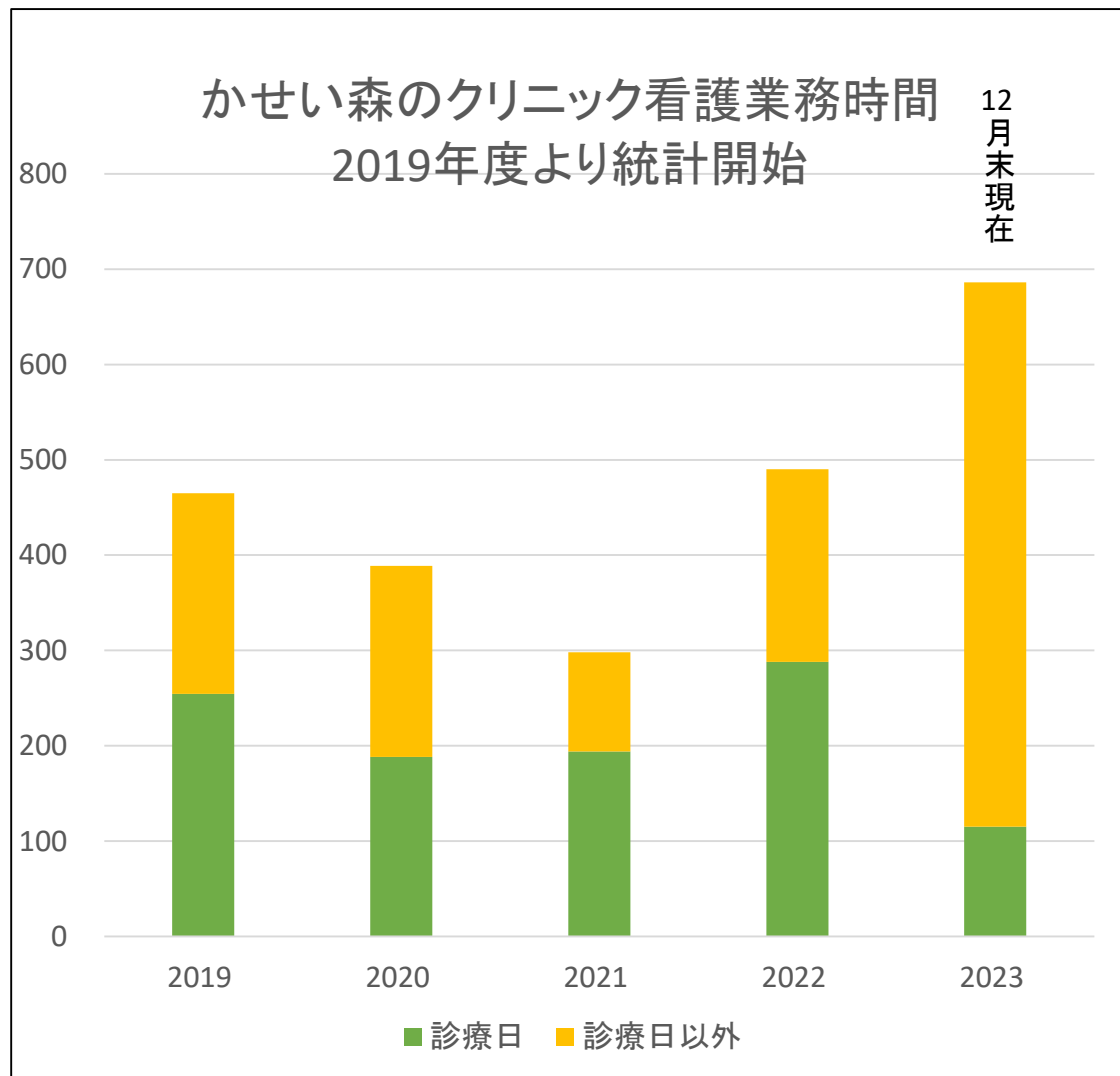
かせい森のクリニック患者数推移



かせい森のクリニックは、2014年度に小児・アレルギー科と小児神経内科が開設した。両科とも相談を主とした患者1人に時間をかけた診療を主とし、ことに小児神経内科は1人につき1時間30分枠で対応した。2018年度に小児・アレルギー科は医師2名体制になり、食物負荷試験を開始した。2019年度からは内科・循環器内科を追加した。

患者数は、2020年（COVID-19感染拡大）に減少したが以降は増加に転じている。初診数の変動は少ないが、再診数は当初より増加している。

かせい森のクリニック看護業務年度推移



クリニック開設当初は、特定の看護師が診療介助の業務を行っていたが、患者数の増加や食物負荷試験の開始に伴い、保健室看護師に食物負荷試験の診療補助、児童の観察等、応援依頼することが増えた。

診療日以外には予算や業務報告等の内部の業務に加え、外部機関への提出書類等の業務が多かった。また、2024年度からは、複数の看護師で業務を担うことになり、2023年度はマニュアルや書類の整理等事務業務が増加し、業務時間数が保健室全体で多くなった。

注) 診療日の業務時間は診療介助以外の時間数も含まれている。

狭山保健室の展望

専門職業人を目指す女子大生のため、健康管理が学生自身
できるサポート体制を整える

- ・個人面談の実施を継続し、保健指導を充実させる
- ・アドバイザーミーティングにより学生支援につながる
情報交換を継続する
- ・学生が心身の相談をしやすい環境づくりを整える

